不退転

第 12 号
東江中学校
校長　神元 勉

「超・積極的指導法」

長谷川博之・著、「生徒に『私はできる！』と思わせる超・積極的指導法」、学芸みらい社・発行の書籍から抜粋して紹介します。

次の人は誰でしょう

六歳で父を失い、三人の兄弟の世話をしながら、働きづめの母を助けるために家庭料理を手がけるようになる。十二歳の時、母の再婚をきっかけに家を出てからは、機関車の助手や保険の外交、蒸気船、フェリーのサービスステーションなどの様々な職業を転々としながら三十代後半でガソリンスタンドを経営するが、干ばつや大恐慌で倒産。六十歳でレストラン事業を始めるが、失敗し多額の借金を抱え込み、社会保険で生計を立てる。六十二歳で、背水の陣の思いで更に借金を重ね、手元に残ったわずかな資金で再度レストラン事業を模索……。

家族団らんで話題にして、誰なのか考えてみてください。答がわかったら、報告してください。さらにもう一話……。

当時「味の素」社が主力商品である「味の素」の売り上げアップを狙い、全社員に売り上げ倍増計画のアイディアを提出させました。さて、あなたならこのときどんなアイディアを出しますか。

しっとりと学び合う教室

教室は間違えてもいいところだ
間違いを　恐れちゃいけない
間違いを　笑っちゃいけない
分からないことを　学ぶのだから　間違えて当たり前
分からないことを　訊くことは　恥ではない
ちょっとした　勇気さえあれば　誰でも訊ける
分からないことを　訊くことから始まる　『学び合い』
分からないことや間違いを　どんどん　出し合って
いろんな人の　意見や考えを　心の底から聴き合って
お互いを認め合い　支え合い　安心して学び合える
そんな『しっとりと学び合う教室』　作ろうやあ

そうすれば　ちょっとした　勇気を出せば
誰でも　「ここどうなってんの？」　と訊ける
そして　訊かれたら　「こうじゃないの」と
とことん　相手が納得するまで　学び合える
でも　訊かれもしないのに　「教えてあげる」はダメ
机に突っ伏したり　参加できない　仲間がいたら
「いっしょにやろうよ」と声をかけてくれる
勇気を出して　発言してくれた人が　詰まったら
「言いたかったのはこうじゃない？」とつないでくれる
お互いに『きき合い　つなぎ合い　支え合う』
そんな『しっとりと学び合う教室』　作ろうやあ

■「話し合い」ではなく、「学び合い」を!!

「話し合い」は、自分がわかっていることや自分の考えの**「言い合い」**。一見**活発**に見えるけど、何も学んでいません。

「学び合い」は、互いの意見や考えの**「聴き合い」**。困ったら遠慮せず、仲間に助けてもらい、わかるまでとことん、説明や考え方を**「ボソボソ」**と聴き合うことが大切なのです。

■学校は、何を学ぶところ？

中学校では、国語、数学、英語など、9教科を勉強しますが、**学校で勉強したことが直接、生活で役に立つことは、あまりありません。**では、学校は何を学ぶところでしょうか？

学校はもっと大事な事を学ぶためにあるはずです。それは、**いろいろな人とかかわり、仲間の力を借りて、自分がわかるようになる、できるようになる能力を学ぶところです。**

私は、肉体労働が苦手です。そんな時は、若い職員にお願いします。その代わり、私はパソコン操作が得意なので、パソコンで困っている職員がいる時は、助けてあげます。いろいろな人とかかわり、**他の人の力を借りられる人が、社会で認められるのです。**

だから、『わかりたい（学びたい）から教えて？』と言えること。そして、**『仲間を誰一人見捨てない（ひとりぼっちにしない）こと』**が『学びの第一歩』なのです。

■「わからない」は、なぜ大事？

「わからない」と言えることは、**『わかりたい』と『あきらめない』**ことにつながります。

「わかること」では、全員はつながらないけど、**「わからないこと」でこそ、全員がつながるのです。**

■「間違い」は、なぜ大事？

「正解」だけでは、『学び』は深まりません。**「間違い」から、『学び合い』が始まり、『学び合う学び』が深まる**のです。

だから、「間違い」を笑ったりせず、「間違い」や「わからないこと」をどんどん出し合い、安心して**『しっとりと学び合える教室』**にして欲しい!!